

DAPPE

だっぺ

うっちやれシテイライフ

黒澤徹の酔い語り



地域おこし協力隊の黒澤です。最近ふと思ったことを書いてみます（長文になってしまったので前半&後半の2回で掲載します）。今回は前半。

【前半】 地方の人口減少は多くの自治体でも課題とされ、どこの役場にも「新規就農者募集！」や「移住者に優しい制度や施設のご紹介！」「空き家対策！」など様々な担い手確保のためのチラシなどが置いてあります。鋸南町も例にもれず、移住者のお誘いは盛んです。

私は「獣害対策」という比較的可なりやすいミッション担当型なので移住者としての自分の居場所についてそれほど焦って考えてはいませんでした。必要とされる仕事をすれば自然と居場所はできるだろうと。

日本各地には鋸南町よりもっと自然環境が厳しく、もっと都市部から遠くもっと激しい人口減少にさらされている地域（過疎地域を通り越して「限界集落」という言葉もあります）も少なくありません。

そういったところにお住まいの方からすれば、鋸南町は東京からも近いし近くに便利な買い物施設はあるし、気候は温暖だし、多くの作物は作れるし漁業も盛ん、などよっぽど恵まれていると指摘されることもあります。確かに、唯一人口が集中している東京などの首都圏が近いので、若者など簡単に呼べそうだと言われます。都心部に近いということ、人を呼びやすい反面人口が都市部へ流出しやすいとも言えるのですが。

例えば、ある程度の定着が期待できる人を呼びこむには、一般的には何が必要でしょうか？

まずは「仕事」でしょうか。今や仕事はインターネットなどを駆使すればどこでもできると言われています。では、鋸南町でしかできない仕事はあるのでしょうか？農業や漁業などの第一次産業は可能性ありそうです。ただ一般的に若年層には不人気な職種です。そもそも、参入障壁は高いし、これま

での生活レベルを維持できるほどの収入が得られるか？など、敷居は高いかもしれません。

仕事は、昨今の働き方改革で、時短やフルタイム以外の出勤形態、休暇の取り方の変化、仕事優先とは違ったワークライフバランスの選択など柔軟なスタイルが認められています。であれば、鋸南町に居ながらにして例えば週に3日の都内勤務とか、自宅で仕事をするテレワーク（情報通信技術「ICT」を活用した、場所や時間にとられない柔軟な働き方）とか、複数の仕事を持つ兼業サラリーマンのようなスタイルなど、不便なくできることも多くなるかもしれません。

【前半以上。以降は次回へつづく】

鋸南町地域おこし協力隊

（有害鳥獣対策担当） 黒澤 徹



- ここどこだっぺ。答え
- ①佐久間ダム沿い。藁珈琲洞さんの奥。
 - ②大崩。八雲神社の少し先からの景色。
 - ③下佐久間。セブンイレブンとB&Gの中間。
 - ④元名無料駐車場から。 ⑤旧鋸南幼稚園。

発行元 鋸南町地域おこし協力隊 鋸南町保田66-1

発行日 2019年4月5日

編集・デザイン 室井翼（移住定住担当）

地域おこし協力隊
Facebookページ



ここどこだったっぺ。



こんにちは。地域おこし協力隊の室井翼です。鋸南町に移住して初めて千葉にも方言あることを知りまして。4か月が経ち、だいぶ聞き慣れてきました。そんな自分が今一番好きな房州弁は「くかし?」です。「くかしら?」から「ら」が無くなっただけなのになんか可愛く聞こえるんですよ。「いいかし」とか最高です。

ということを始めましょう。簡単なものから難しいものまであるかもしれないがちょっとでも楽しんでいただけたらと思います。
※答えは裏表紙にあります。



さて今回は写真を使ったクイズを掲載することにしました。活動報告でもなければコラムでもなく、クイズです。なぜかという、町報の表紙の写真を撮らせてもらったり、SNSで鋸南町の写真を載せたりするうちに、「これって〇〇の写真?」や「こんなところあるっけ?」と言ってもらったことがたまにあり、そのクイズ的なやり取りするのが楽しかったからです。そうです、なんとなく楽しかったからです。

自分は365日写真撮らない日の方が少ないくらい写真を撮ります。鋸南町に来てからほぼ毎日カメラを構えています。ところが動かされる風景に溢れているなあと感じています。

なになに? そもそも地域おこし協力隊って

活性化するためにお手伝いすることです!



みなさま、こんにちは。鋸南町地域おこし協力隊の清水多佳子です。この冊子は、町の地域おこし協力隊の活動について、みなさまに知っていただきたいと思い発行しております。さて「地域おこし協力隊」っていったい何なの?と持っている方、実は結構いらっしゃるのではないのでしょうか。今回は少し協力隊の説明を試みたいと思います。これ、日本全体で問題となっている人口減少を解消するため、首都圏から過疎地域に人を誘致する国の制度なんです。過疎化の進んでいる地域が少しでも活性化しようお手伝いをするのが、私たちの任務です。現在、鋸南町には4人の協力隊が活動しています。イノシシなどの獣害の対策をしている黒澤徹、伊藤哲生と、移住定住対策の室井翼、そして観光支援の私です。少しずつではありますがみなさまのお役に立てるよう頑張りたいと思っています。

わたしの活動報告

保田駅前「居場所づくり」をしています。

昨年9月に着任してから、はや半年が経過しました。海を見ながらの観光協会のホームページのリニューアル、ふるさと納税のサイトで生産者インタビュー、町のお祭りやイベントに参加し動画の制作を行ってきました。

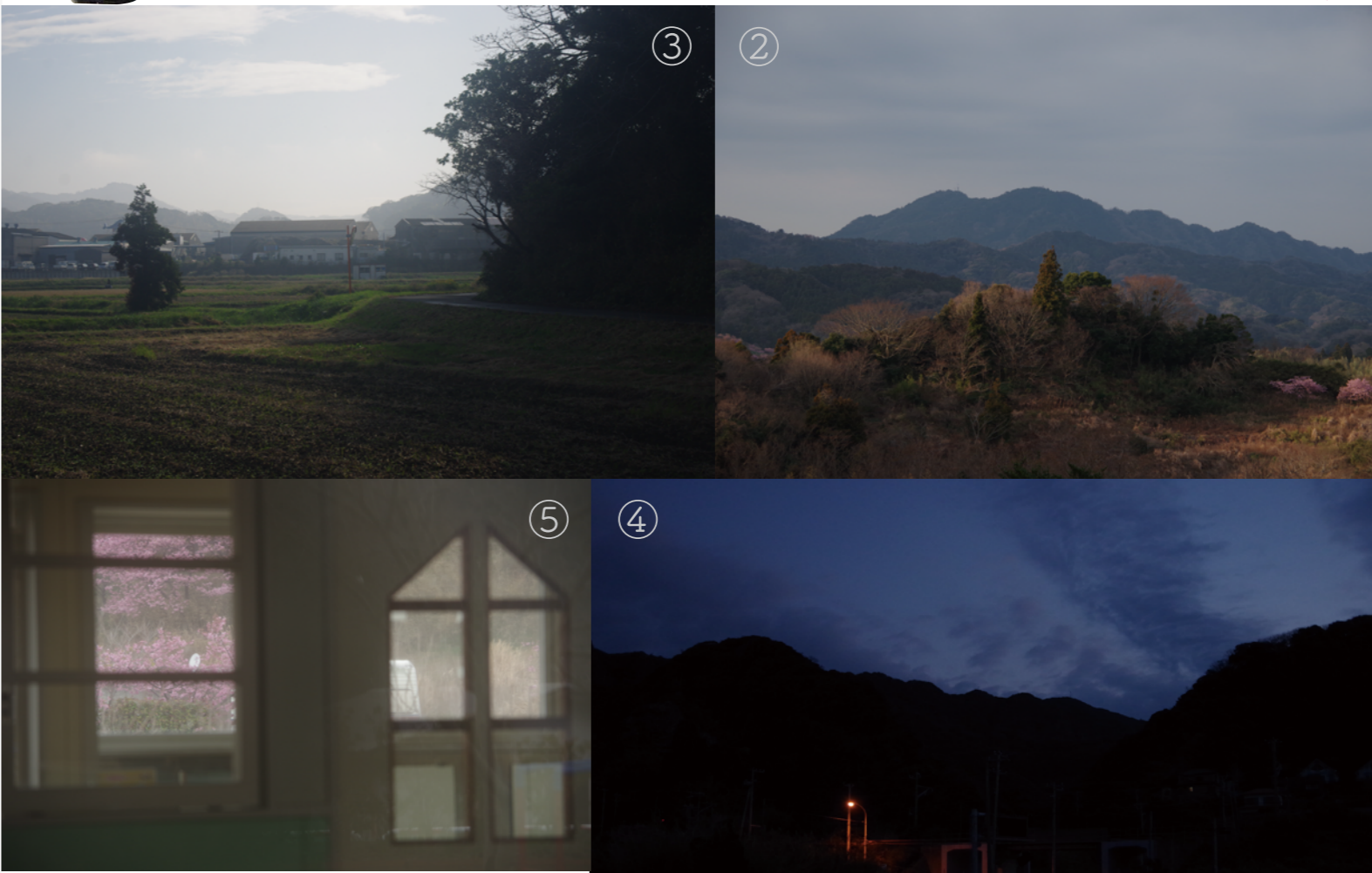
そして、現在、取り組んでいるのが、JR内房線「保田駅」の前に物件を借りて、町の人たちが観光客が集まる居場所をつくることです。

保田駅前にはたくさん観光客が訪れます。しかし、駅前には休める場所が少なく、電車で鋸南町に来た人が、花見をしたあと一息つくことが難しい状況です。旅の終わりに、鋸南町を知ってもらえるカフェがあれば、観光客の満足度も上がるかもしれない。そして、町の人々がゆとりと交流できる場所があれば、何かが

ソロアリの被害発見!大工さんに修繕してもらっています。



変わるきっかけを作れるかもしれない。今、そんなことを考えています。みなさま、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



写真・動画載せてます。よかったらのぞいてください。室井翼 Instagram アカウント

→空き家バンクに登録されていた元旅館の物件。



「意見交換会」を実施します!

私たち、地域おこし協力隊は、保田駅前の物件をどのように運用していくのか「居場所づくり」について、住民のみなさまからさまざまなご意見をいただきたいと考えております。つきましては、次の日程で「意見交換会」を行います。是非ご参加ください。

日時 4月26日(金) 12時半~14時半、19時~21時
場所 JR「保田駅」前すぐ
交通 電車もしくは車(車でいらっしゃる方は駐車場の関係もありますので、ご相談ください)
定員 10~15人

※参加される方は次のメールアドレスまでご連絡ください。

takako_shimizu922@yahoo.co.jp